

学年	教科	単元名	児童	場所	指導者
3年	国語科	「ざいりょうを集めて、 ほうこくする文章を書こう」	3年1組36名	3年1組 教室	谷口 愛

1 単元について

単元マップ

見方・
考え方が
高まった
姿

学校にあると良い記号について説明するために、理由や事例を挙げながら自分の考えを明確にした報告文を書くことができる。

まとめる
広げる

知識・技能「何がわかるようになるか・何ができるようになるか」

記号のよさに気付き、学校にあるとよい記号を見つけるための単元の学習を見通すことができる。①②

取材カードを作ることを通して、記号の役割や特徴を明確にすることができる。③④

自分たちが困っていることを解決できる記号かどうかを考えながら、集めた記号を分類し、報告したい記号を見付けることができる。⑤⑥

伝えたいことを段落ごとに書くことで、自分の考えを明確にした報告文を書くことができる。⑦～⑭

用語・語句

- ・記号

- ・取材カード
- ・役割
- ・特徴

- ・報告文
- ・段落
- ・説得力

単元を通した問題解決的な学習の過程



つかむ
見通す

追究する

本単元で育てたい資質・能力

【知識及び技能】

○考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。

【思考力，判断力，表現力等】

○相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。

【学びに向かう力，人間性等】

○筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをまとめることができるようにする。

単元・題材について

B書くこと

エ 文章全体における段落の役割を理解し，自分の考えが明確になるように，段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。

本単元は，「問い」を決め，追求する「方法」を考え，実際に「調べて」，分かったことを書くという，調査報告文を書くための一連の力を養う単元である。児童の身近にある「記号」を取り扱うことで，児童が自ら材料を集め，それらについて詳しく考えるという活動を楽しめるようになっている。

また，前単元である「こまを楽しむ」で学習した「段落」や「まとまり」を思い出しながら，報告文を書くことで，自分の考えが伝わりやすい報告文を書くことができるようになっている。

この学習で学んだ「実証調査」は，社会科や理科等の他教科でも活用できる。今回の学習では「報告書の型」をしっかりと身に付けさせることが重要である。

児童の実態

本学級の児童は，数研式標準学力調査（NRT）の国語において，「書く事柄や順序を考え書く」は全国正答率66.4％に対して71.1％，「文や文章を正しく書くこと」は全国正答率67.2％に対して71.7％と，どちらも全国正答率を上回っている。

児童は，興味のあることについて調べる活動に意欲的に取り組むことができる。また，これまでの国語や生活科の学習で，調べるためにどんな本を選べば良いのかということや，色や形に注目して観察するということも理解しており，調べたことをワークシートにまとめることにも慣れている。

分類については，2年国語「みんなできめよう」で，みんなで行いたい遊びを決めるためにグルーピングすることを経験しており，目的や場所など項目ごとに分けることができる。

しかし，調べたことに対する自分の考えを，相手に伝わるように文章にまとめることには慣れていない。

単元の目標

学校にあると良い記号について説明するために、理由や事例を挙げながら自分の考えを明確にした報告文を書くことができる。

単元の指導について

単元に入る前に、児童とは道徳や学活で学校の課題やもっと良くなる場所について話し合う機会を設ける。また、家の中など自分の周りにある記号を記録しておくように話しておく。こうすることによって、オリエンテーションにより意欲的に参加できるようにしたい。

「つかむ・見通す」場面では、学校を探検することで、校内にある記号の役割を考えたり、もっとみんなに知らせたいものを見つけたりして、学校に必要な記号は何かを考えさせる。注意喚起のみを目的にするのではなく、もっと知らせたい、もっと便利にしたいという視点をもたせ、より多くの記号を想起できるようにしたい。

「追究する」場面では、取材カードを作った後、それがどのように活用できるのか、グループごとにまとめていく。分類する作業の中で、自分の集めた記号が様々な場面で役立つことを再認識させたい。また、ここでは報告文の書き方も学んでいく。報告文を用いることで、自分の考えが明確になり、伝えたいことが分かりやすく表現されることを実感させたい。

「まとめる・広げる」場面では、報告文を用いることで、自分の伝えたいことがしっかりと友達や校長先生に伝わることを実感させ、社会科や理科、総合的な学習の時間等でも活用できるようにしたい。

単元の評価規準

【国語への関心・意欲・態度】	【書く能力】	【言語についての知識・理解・技能】
①身の回りにある記号を探し、友達に伝えようとしている。 ②記号があると良い場所を探し、文章に書いて伝えようとしている。	①自分の考えが伝わるように、取材カードを書いたり、報告の型に沿って文章を書いたりしている。 ②集めた記号の特徴を考え、目的ごとに分類することができる。 ③自分の書き方と友達の書き方を比較して、感想や意見を伝えている。	①報告する文章の書き方を理解することができる。 ②句読点や段落を適切に表記して文章を書いている。

子どもの深い学びの姿

実証調査で分かったことや自分の考えを明確に伝えるために報告文の書き方を理解し、それを用いるよさを感じながら報告文を書くことができる子。

2 単元の指導計画

【14時間扱い 本時5 / 14時間】

次	時	○おもな学習活動 ・ 具体的内容 □まとめ	教師の評価規準 (評価方法) ◇到達が不十分な児童への指導の手立て
オリエンテーション	①	<p>○身の回りにある「気になる記号」を集めて、報告し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師から「気になる記号」を提示する。 ・その記号は、何を教えてくれるのかを話し合う。 ・その他にもどんな記号があるのかを調べ、紹介し合う。 <p>記号は私たちにいろいろなことを教えてくれるんだね！</p> <p>○学校にあると良い記号について調べ、校長先生に分かりやすく伝えるという学習の見通しをもつ。</p> <p>学校にあつたらよい記号を校長先生に分かりやすく伝えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習計画を立てる。 	<p>【関意態①】</p> <p>身の回りにある記号を探し、友達に伝えようとしている。</p> <p>(発言・観察)</p> <p>◇場所や記号の絵や色に着目させて伝えようとしていることを考えさせる。</p> <p>思考を活性化させるアクティブ化ポイント① 校内を歩き、記号を発見する経験を通して、記号が身近にあることを実感させる。</p>
	つかむ・見通す	②	<p>○学校を歩き、記号があると良い場所を見つけて交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで困っていたことや、もっと知らせたいことなどを見つれたり、思い出したりして記号があると良い場所を見つけ、ノートに記録する。 ・見つけてきた場所とその理由を全体で交流する。
追求する	③④	<p>○取材カードを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師のモデルを見て、必要な材料を考える。 ・「あった場所」「記号の意味」「気がついたこと・特徴」を調べることを確認する。 ・本やインターネットで調べて取材カードにまとめる。 <p>しゅざいカードを作ると、記号のやくわりがはっきりするね。</p>	<p>【書①】</p> <p>自分の考えが伝わるように、取材カードを書いている。</p> <p>(取材カード・観察)</p> <p>◇教師のモデルを見たり、友達や教師と一緒に本を見たりして作成させる。</p> <p>思考を活性化させるアクティブ化ポイント② 「第1時よりもさらに多くの記号を調べたい」という子供のために、十分な時間をとる。</p>
	⑤(本時)⑥	<p>○集めた記号がどんな場面で使えそうか、グループで分類する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取材カードを見せ合い、どんな場面で使えそうか、理由とともに紹介し合う。 ・紹介した取材カードを模造紙にグルーピングする。 ・全体で、グルーピングした模造紙を紹介し合う。 <p>校内で使えそうな記号がたくさんあることが分かったね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この中から一つ選び、校長先生に伝えることを知らせる。 	<p>【書②】</p> <p>集めた記号の特徴を考え、自分の考えのもと、場面ごとに記号を分類することができる。</p> <p>(模造紙・観察)</p> <p>◇友達の紹介を参考にしたり、第2時で校内を歩いたことを思い出したりしながら考えさせる。</p> <p>思考を活性化させるアクティブ化ポイント③ 学校の課題や校内の様子を思い出しながら友達と話し合うことで、使えそうな場面をたくさん想起させる。</p>

追求する	⑦	<p>○報告文の書き方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人に調べたこと伝えるときに「報告文」を使うと良いことを伝える。 ・教師のモデルを読んだり、構成表を作成したりして報告文の構造を知る。 <p>ほうこく文は、せつ明したいことをだんらくごとに書くと良いね。</p>	<p>【言①】</p> <p>報告する文章の書き方を理解することができる。</p> <p>(構成表・観察)</p> <p>◇教師の提示した報告文が段落ごとにどんなことを説明しているのかに着目させる。</p>
	⑧ ⑨	<p>○学校にあると良い記号を一つ選び、集めたカードや構成表をもとに下書きをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つの段落には、一つの事項について書くことを確認してから書く。 ・教科書 P58 の「よく使う書き表し方」を参考にして書く。 ・調べたりないことや分からないことを再度調べ、下書きに反映させる。 	<p>【書①】</p> <p>自分の考えが伝わるように、報告の型に沿って文章を書くことができる。</p> <p>(下書き用紙・観察)</p> <p>◇自分が説明しやすい記号を選ばせたり、教師と一緒に構成表を基に下書きを書いたりする。</p>
	⑩	<p>○下書きを読み合い、良いところやアドバイスを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告文に書くべき4つのことを段落に分けて書いているかをグループごとに読み合う。 ・校内にあったら良いという理由が、説得力のあるものなのかを確認する。 ・良いところを伝え合い、自分の報告文に自信をもつ。 <p>みんなで見せ合うと、もっと分かりやすく伝えられる文章になるね。</p>	<p>【書③】</p> <p>自分の書き方と友達の書き方を比較して、感想や意見を伝えている。</p> <p>(付箋・観察)</p> <p>◇良いところやアドバイスをする視点を確認しながら付箋を書いたり、話し合ったりする。</p>
	⑪ ⑫	<p>○下書きを清書し、報告する文章を完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記号のイラストも入れて、見やすくする。 ・早く終わった子は紹介の練習をする。 	<p>【言②】</p> <p>句読点や段落を適切に表記して文章を書いている。</p> <p>(下書き・観察)</p> <p>◇教師のモデルにある文言やアドバイスを参考にしながら丁寧に清書させる。</p>
まとめる・広げる	⑬ ⑭	<p>○学校にあると良い記号を見せ合い、意見や感想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告文を用いて、グループごとに紹介し合う。 ・書き手の思いを受け止め、良い点を感想カードに書く。 ・他の友達や校長先生にも見てもらう。 <p>ほうこく文を使うと、自分の考えを分かりやすくせつ明できるね。</p>	<p>【書③】</p> <p>自分の書き方と友達の書き方を比較して、感想や意見を伝えている。</p> <p>(感想カード・観察)</p> <p>◇報告文に書いてあることを落ち着いて読んで紹介すると良いことや友達の紹介をどう思ったかを付箋に書いたら良いことを伝え、交流させる。</p>

思考を活性化させるアクティブ化ポイント④
 友達と良いところ探しやアドバイスをし合うことで、自分の報告文に自信をもったり、より良くしたいという意欲を持たせたりする。

思考を活性化させるアクティブ化ポイント⑤
 友達や校長先生から「この記号が学校にあると○の時に助かる」という具体的な感想をもらうことで、今までの学びの有用感がもてるようにする。

パフォーマンス・シート 「気になる記号」

名前



☆学習か題☆ 校長先生に「学校にあるとよい記号」を分かりやすくつたえよう！

	③④	⑤	⑥	⑦
学習のめざすこと	しゅざいカードを作って記号のやくわりを知ろう！	あつめた記号が学校のどこで使えそうか、なかま分けしよう！	ほかのグループの分け方を見て、自分たちの分け方とくらべよう！	ほうこく文の書き方をおぼえよう！
レベル4	しゅざいカードに書く3つのことのほかに、気がついたことや学校のどこで使えそうかを書く。	友達が自分の考えにさんせいしてくれるようにせつ明しながら、記号をなかま分けする。	ほかのグループの分け方を見て、自分のグループの分け方をせっとく力のある分け方に直すことができる。	ほうこく文のこうそう図をかんせいさせて、ほうこく文に書く内ようを考える。
レベル3	しゅざいカードに書く3つのことのほかに、気がついたことを書く。	友達に場所だけでなく、どういう時に役立つかをくわくせつ明しながら、記号をなかま分けする。	自分のグループとほかのグループの分け方を見て、どちらがせっとく力があるか考える。	ほうこく文のこうそう図をかんせいさせて、ほうこく文に書くことよいことに気づく。
レベル2	しゅざいカードに書くことを3つしっかりと書く。	友達に使えそうな場所をせつ明しながら、記号をなかま分けする。	自分のグループとほかのグループの分け方の同じ所とちがうところに気づく。	ほうこく文のこうそう図をかんせいさせる。
レベル1	先生といっしょにしゅざいカードを書く。	友達のせつ明を聞いて、なっとくした記号をなかま分けする。	自分のグループとほかのグループの分け方の同じ所に気づく。	先生が作ったほうこく文をだんらくごとに線でかこんで、何が書いてあるのか先生と考える。
おぼえておきたい言葉				

パフォーマンス・シート 「気になる記号」

名前 _____



☆学習か題☆ 校長先生に「学校にあるとよい記号」を分かりやすくつたえよう！

	⑧⑨	⑩	⑪⑫	⑬⑭
学習のめざすこと	ほうこく文に書く記号を一つえらび、ほうこく文の下書きをしよう！	下書きを友達と読み合っ、下書きをパワーアップさせよう！	ほうこく文をかんせいさせよう！	友達とほうこく文を読み合っ、よい所をつたえ合おう！
レベル4	こうぞう図を見ながら、分かりやすく、せっとく力のあるほうこく文を書く。	友達のほうこく文のよい所をつたえ、「こう直すとこんなよいことがあるよ」といったくわしいアドバイスをする。	レベル3のことにくわえて、絵や色を工夫してほうこく文を書く。	レベル3のことにくわえて、絵や色の使い方のよさもかんそうカードに書く。
レベル3	こうぞう図を見ながら、分かりやすい文しょうでほうこく文を書く。	友達のほうこく文のよい所をつたえ、「自分だったらこうするよ」という自分なりのアドバイスをする。	レベル2のことにくわえて、アドバイスしてもらったことを思い出して、ほうこく文を書く。	自分と友達のほうこく文を読みくらべて、自分もまねしたい書き方をかんそうカードに書く。
レベル2	こうぞう図を見ながら、自分のほうこく文を書く。	友達のほうこく文のよい所とアドバイスしたい所をつたえる。	ていねいに字を書いたり、正しく「、」や「。」を使ったりして、ほうこく文を書く。	友達のほうこく文のよい所を理由といっしょにかんそうカードに書く。
レベル1	こうぞう図や先生のほうこく文を見ながら、先生といっしょにほうこく文を書く。	友達のほうこく文のまねしたい所を見つける。	ていねいな字でほうこく文を書く。	友達のほうこく文のよい所をかんそうカードに書く。
おぼえておきたい言葉				

3 本時の学習

(1) 目標

集めた記号の特徴を考え、自分の考えのもと、場面ごとに記号を分類することができる。

(2) 展開【14時間扱い5 / 14時間目】

*一単位時間レベルB-②【対話重視】

	児童の活動	思考	□教師の働きかけ ◆教師の評価(評価方法) *思考を活性化させるアクティブ化ポイント
導入 5分	1 本時の学習を確認する。 ・今日は記号を仲間分けする時間だ。 2 前時の学びを確認する。 ・たくさん記号があったな。 ・学校にもたくさんの記号があったな。 3 本時の課題を確認する。	全体	<input type="checkbox"/> 学習計画を見て、今日の学習を確認させる。 <input type="checkbox"/> 教室の掲示物を見ながら思い出させる。
あつめた記号がどんな場面で使えそうか、なかま分けをしよう。			
展開 30分	4 教師が提示した記号を全体で分類し、分類の方法を理解する。 ①誰のため ②どこに ③何を知らせるため 5 グループで取材メモを見せ合い、分類する。 ・分類したら、見出しをつける。 ・早く終わったグループは教師の記号も加えて分類する。	全体 グループ	<input type="checkbox"/> 教師が提示した記号を用いて、①～③の順番で分類することを確認する。 <input type="checkbox"/> グループの中で意見が割れたり、分からなかったりする記号は保留にしても良いし、2つのグループにまたがっても良いことを伝える *学校の課題や校内の様子を思い出しながら友達と話し合うことで、使えそうな場面をたくさん想起させる。 ◆集めた記号の特徴を考え、自分の考えのもと、場面ごとに記号を分類することができる。 (模造紙・発言)
終末 10分	6 学習の振り返りをノートに書く。 ・どんな考えで分類したのか ・友達と分類してみて自分の考えは変わったか。 7 振り返りを交流する。 8 次時の予告をする。 ・他のグループはどんな記号をどんなふうに分類したのか紹介し合うことを知る。	個 全 個	◆集めた記号の特徴を考え、自分の考えのもと、場面ごとに記号を分類することができる。 (ノート) <input type="checkbox"/> 自分とは違う場面を見つけた友達がいることを知らせ、次時の意欲につながるように促す。

◇評価規準の具体（評価方法～模造紙・ノート）

【書く能力】

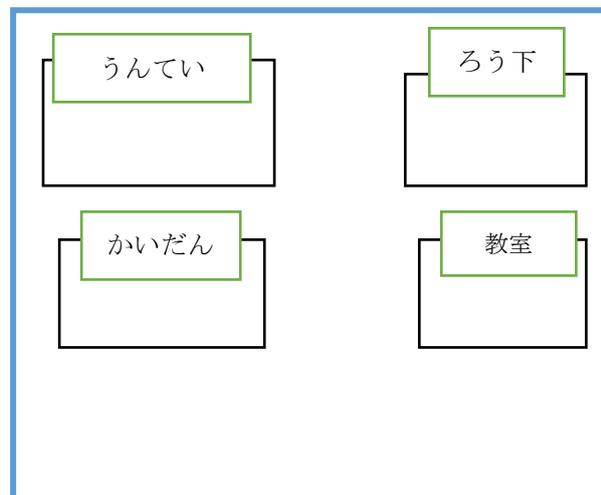
十分に満足できる（A）：集めた記号の特徴を考え、自分の考えに該当する実例をいくつか取り上げながら、場面ごとに記号を分類することができる。

おおむね満足できる（B）：集めた記号の特徴を考え、自分の考えのもと、場面ごとに記号を分類することができる。

努力を要する児童への指導：友達の紹介を参考にしたり、第2時で校内を歩いたことを思い出したりしながら考えさせる。

(4) 板書計

- ◎グループで記号をなにかま分け
- ①だれのため
- ②どこに
- ③何を知らせるため



あつめた記号がどんな場面で使えそうか、なにかま分けをしよう。